

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

小児科医のための不登校診療ガイドライン -小 児心身医学会ガイドライン集 改訂第2版-

日本小児心身医学会 不登校ワーキンググループ (委員長: 村上佳津美 近畿大学医学部堺病院
心身診療科)

南江堂、2015 年 7 月 10 日 改訂第 2 版発行

Minds 掲載 無

■1 漢方薬

疾患:

不登校

有効性に関する記載ないしその要約:

薬物の使用についての項に、下記の記載がある。

『抗うつ薬や抗不安薬をタイミングよく使うことが事態の打開につながる場合がありますが、まずは身体症状に対して使い慣れた薬物を上手に組み合わせて使うようにします。漢方薬を適宜使用するのもよいでしょう。』